



連作障害について

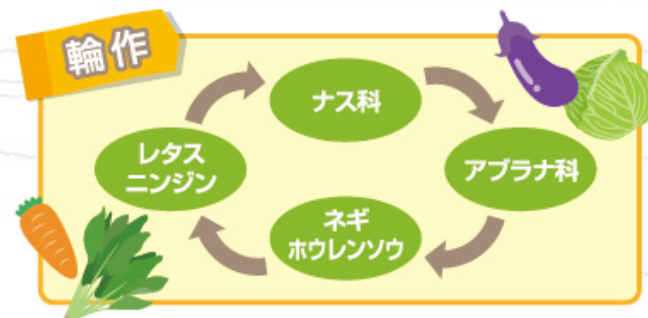
①連作障害とは

同一の圃場で同一作物を繰り返し栽培することを連作といい、連作により収量が落ちたり生育不良で病気になりやすくなることを連作障害という。連作障害は同一作物を繰り返し栽培することで、土壌の栄養素のバランスが崩れたり微生物の偏りを原因として発生する。連作障害で発生する代表的な病害に青枯病・根こぶ病・キスジノミハムシ等がある。

②連作障害が発生しやすい野菜と輪作の目安

連作障害は発生しやすい野菜と発生しにくい野菜がある。発生しやすい野菜は連作を避け、同じ圃場にはしばらく違う種類の野菜を作付する。同一圃場で作付する場合は圃場を区分けして毎年違う種類の野菜を作付する。何種類かの野菜をローテーションで作付する方法を輪作という。

ナス科の野菜であるトマト・ナス・ピーマン・ジャガイモの自根の苗を作付する場合は3～4年を目安に輪作する。アブラナ科の白菜・キャベツ・ダイコン・ブロッコリーは、1～2年を目安する。アカザ科のホウレンソウやヒガンバナ科のネギは連作障害が発生しにくく連作しても問題ない。



③対策

- 計画的に輪作を行い、前年に作付した野菜と違う科を作付する。
- 同一圃場で栽培する場合は違う畝に作付する。
- ナス科の野菜は接木苗を作付する。
- 発病株や病根を圃場外に除去する。
- 排水をよくする。